

# 評価報告書

熊本学園大学大学院  
会計専門職研究科  
アカウンティング専攻

令和6年 3月 25日



令和 5 年度分野別認証評価

特定非営利活動法人 国際会計教育協会

会計大学院評価機構評価委員会

## I 評価結果（総合判定）

評価基準 10 章すべての基準，解釈指針を満たしていることから，会計大学院評価機構が定める評価基準に適合していると認める。

## II 認定会計大学院について

教育課程と教員組織にかかる 5 章（第 2 章，第 3 章，第 4 章，第 5 章，並びに第 8 章）すべての基準，解釈指針を満たしていることから，認定会計大学院として認める。

「認定会計大学院」の称号を授与する。

### Ⅲ 評価結果の判断理由並びに要望事項及び優れた点

熊本学園大学大学院会計専門職研究科アカウンティング専攻（以下、当該会計専門職大学院という。）の令和5年度分野別認証評価に関して、当該会計専門職大学院から提出された自己評価報告書に基づき、会計大学院評価機構の定める評価基準を満たしているかについて調査を行った結果、適否判定リストのとおり、すべての基準を満たしており、評価基準に適合していると認められた。

なお、要望事項及び優れた点について付記している。

#### [要望事項]

##### 1. 専任教員の科目別配置についての検討

基準 8-2-2, 基準 8-5-1 は満たしているが、企業法分野については、基礎科目であり必須科目として配置されているため、専任教員による担当が望ましい。学生の9割以上が税理士志望という現状ではあるが、コーポレート・ガバナンスに対する意識の高まりや税理士によるコンサルティング業務なども考慮すると会計専門職業人として、必要不可欠な知識であり、長期的な教員の採用計画の中で検討されることが望まれる。

##### 2. 自己評価報告書の作成方法の周知

評価基準 9-2-1 に関連して、今般の調査過程において自己点検評価報告書の形式上の誤記の修正を行ったところであるが、当該報告書は公表される情報であり、今後、その作成方法については、教職員に十分に周知がなされるように留意することが望まれる。

##### 3. 教育課程連携協議会の公表

学則に基づき設置されているアドバイザーボードは教育課程連携協議会として専門職大学院設置基準の要件に合致しており基準 2-2-1 は満たしているが、評価基準 9-3-1 に関連して、WEB上で公表されているメンバーに学内者が含まれていないので、自己点検評価報告書に合わせた表記を行うことが望ましい。

#### [優れた点]

##### 1. 教育内容

基準 2-1-1 「社会的期待を反映した教育課程」に関連し、公的部門の会計に関する科目

を重視し、地域経済に貢献する人材を育成することを目指している点は、社会的期待を反映し、高く評価される。現段階では科目等履修生としての受入にとどまっているが、今後とも継続発展していくことが期待される。

## 2. 教育内容

「入門論文指導」講座の開設は、学位論文作成の基礎的な知識を有しない学生にとっては、非常に有意義な講座であり、教育効果も高く評価される取り組みである。

## 3. 授業の方法

ウィークエンドコースや集中講義の時間割編成について、履修者の学修時間や学修パターンに対応出来るような配慮が行われ、連続した授業日程とならない等、学修効率を考慮した工夫がなされている事は評価される。

## 4. 身体に障がいのある学生に対する支援

基準 7-3-1「障がいのある学生に対する支援」に関連し、熊本学園大学全体の取り組みとして、車いす対応施設の整備、誰でも使用できるトイレの設置、更には災害時の対応まで配慮されており、大変高く評価できる。

適合判定リスト

章	基準	適否	付記事項
1-1 教育目的	基準1-1-1「教育目的の明文化」	○	
1-2 教育目的の達成	基準1-2-1「会計職業人像に適った教育」	○	
	基準1-2-2「体系的な教育，厳格な成績評価と修了認定」	○	
	基準1-2-3「第三者評価の尊重と努力の継続」	○	
2-1 教育内容	基準2-1-1「社会的期待を反映した教育課程」	○	優れた点
	基準2-1-2「段階的カリキュラム」	○	
	基準2-1-3「授業科目のバランスのとれた年次配当」	○	
	基準2-1-4「大学設置基準にしたがった授業時間」	○	
3-1 授業を行う学生数	基準3-1-1「少人数教育」	○	
3-2 授業の方法	基準3-2-1「適切な授業方法等」	○	優れた点
3-3 履修科目登録単位数の上限	基準3-3-1「履修科目登録単位数の上限」	○	
4-1 成績評価	基準4-1-1「成績評価」	○	
	基準4-1-2「他の大学院の単位の認定」	○	
4-2 修了認定およびその条件	基準4-2-1「修了認定およびその要件」	○	
5-1 教育内容等の改善措置	基準5-1-1「継続的なFDの実施」	○	
	基準5-1-2「実務家教員と研究者教員のFDの重点」	○	
6-1 入学者受入	基準6-1-1「アドミッション・ポリシーの公表」	○	
	基準6-1-2「アドミッション・ポリシーによる入試」	○	
	基準6-1-3「公正な入試機会の提供」	○	

	基準6-1-4 「客観的な評価」	○	
	基準6-1-5 「多様な入学者の受け入れ」	○	
6-2 収容定員と 在籍者数	基準6-2-1 「収容定員の上限管理」	○	
	基準6-2-2 「収容定員の適宜見直し」	○	
7-1 学習支援	基準7-1-1 「十分な履修指導体制」	○	
	基準7-1-2 「学習相談と助言体制」	○	
	基準7-1-3 「教育補助者による学習支援体制の 整備」	○	
7-2 生活支援等	基準7-2-1 「生活支援等」	○	
7-3 身体に障が いのある学生に 対する支援	基準7-3-1 「障がいのある学生に対する支援」	○	優れた点
7-4 就職支援 (キャリア支援)	基準7-4-1 「就職支援」	○	
8-1 教員の資格 と評価	基準8-1-1 「教育上必要な教員の配置」	○	
	基準8-1-2 「教員の指導能力の適格性」	○	
	基準8-1-3 「教員の採用と昇進」	○	
8-2 専任教員の 配置と構成	基準8-2-1 「専任教員の必要数と配置」	○	要望事項
	基準8-2-2 「専任教員のバランス」	○	
8-3 研究者教員	基準8-3-1 「専任の研究者教員の適格性」	○	
8-4 実務家教員	基準8-4-1 「専任の実務家教員の適格性」	○	
8-5 専任教員の 担当科目の比率	基準8-5-1 「専任教員の担当科目の比率」	○	
8-6 教員の教育 研究環境	基準8-6-1 「教員の授業負担」	○	
	基準8-6-2 「教員の研究専念期間」	○	
	基準8-6-3 「専任教員を補助する職員の配置」	○	
9-1 管理運営の 独立性	基準9-1-1 「独立の運営の仕組み」	○	

	基準9-1-2「教育課程にかかる審議のための会議」	○	
	基準9-1-3「人事の審議の尊重」	○	
	基準9-1-4「十分な財政的基盤」	○	
9-2 自己点検および評価	基準9-2-1「自己点検および評価の実施と公表」	○	要望事項
	基準9-2-2「自己点検および評価の実施体制」	○	
	基準9-2-3「自己点検および評価結果の活用」	○	
	基準9-2-4「自己点検および評価のための外部評価員」	○	
9-3 情報の公表	基準9-3-1「教育活動等の状況の情報提供」	○	要望事項
	基準9-3-2「教育活動等に関する重要事項の情報提供」	○	
9-4 情報の保管	基準9-4-1「評価の基礎となる情報の保管」	○	
10-1 施設の整備	基準10-1-1「教室、演習室等の整備」	○	
10-2 設備および機器の整備	基準10-2-1「設備および機器の整備」	○	
10-3 図書館の整備	基準10-3-1「図書館の整備」	○	
(注1) 適否欄には、基準を満たす場合は○、満たさない場合は×を記入する。			
(注2) 付記事項欄には、基準を満たさない場合は判定理由と記入し、その他に要望事項または優れた点がある場合は、その旨を記入し、それぞれの内容は別に記載する。			
(注3) 第2章、第3章、第4章、第5章及び第8章のすべての基準を満たす場合に評価基準に適合していると認められる。			